

テント一週一文（さ）—— 佐賀地裁玄海原発差止仮 処分申請却下への批判

（承前）

5年前に農業を始めて、やっと仕事に慣れてきたという男性（以下「男」）が紹介してくれた、3月21日の東京代々木公園での「川内原発行政訴訟」の案内を回し読みしてから約1週間経ちました。春!と言いたい穏やかな日に、暖かい日差しがテントに差し込んでいて、テント内はシーンとしています。先週は「男」のタブレットを借りた女の人（以下「タ」）が、テント内には一人だけ、「入口」と書いた透明ビニールに見えるテントの奥の方に座っています。その静かさに見合ったおとなしきで、新しく女の人（以下「新」）が透明の「入口」ビニールをそっと押して入って来ます。

「タ」は素っ頓狂な声で、「アーラ、いらっしゃい」と「新」のおとなしさを台無しにしてしまいます。台無しにしたどころか、「新」さえ「ア、今の声で目が覚めたわ!」というくらいです。

タ：久しぶりね。

新：シーンとしているから、そっと入ろうとしたのに、あなたの声に驚いたわ。

タ：あなたがおとなしそうに入ろうとしたから、からかったのよ。

新：一人っていうのは珍しいわね。

タ：一人は用事で出かけて、間もなく帰ってくるわ。もう一人の人は片付けのときにまた来るわ。

新：村長さんは?

タ：さっき何かの打ち合わせに出かけたわ。あの方も忙しいわね。

新：じゃ今日の片付けは村長さんを入れて4名?

タ：あなたを入れて5名。

新：私は時間がないのよ。ちょっとだけ挨拶に来たの。でもあなた一人だと挨拶に来た甲斐はないわ。2,3日前に会ったばかりですものネ。

タ：あの日の佐賀地裁の決定は酷かったわね。

新：佐賀での決定通知は午前で、ここで集会があったのは午後だから、ここに来たときには結果は分っていたんだけどね。

タ：集会に来ていた弁護士さんが「裁判官の頭の中には3.11もフクイチもないんだ!」と怒っていたわね。

新：怒りたくもなる決定だったわね。アラ、帰ってきたわ。

「男」が入口を押して入ってきて、「新」に頭を下げます。「タ」は「男」にタブレットを借りた義理があるからでしょうか、「新」に「この方はね.....」と紹介しようとしています。「新」は「タ」の話の途中で躊躇なく口を挟みます。「男」に向かって「前もこのテントでお会いしたことがありましたね」と挨拶を返したのです。

男：寒い日でしたよね。僕が大根をお得意さんに届けた帰りに、ここにちょっと立ち寄った時だったと思います。

「タ」は「それで用事はうまくいったの?」と自分の方に話題を持ってこようとしています。

男：用事って程のことじゃないんですよ。3月20日の佐賀地裁の玄海原発差止申請却下に対して弁護団が抗議の声明を出していたので、それをプリントアウトしていたんですよ。これです。

タ：この方はね（と「新」を示して）、その日のここでの集会に来ていて、「酷い決定だった」って言っているのよ。

男：私は新聞の報道でしか知らないんですけど、何がそんなに酷いんですか？

タ+新：何がそんなに酷いんですかって？

男：二人そろって、僕に怒らないでくださいよ。農業を始めて分ってきたことなのですが、怒ってもいい野菜は出来ないんですよ。

「タ」は急に「男」に優しく返事をします、「そうかもしれないわね。別にあなたに怒っているんじゃないのよ。それと、私は人間に怒っているのよ。自然の野菜じゃないのよ。とは言っても、まずい野菜に出くわした時には怒りたくなることもあるけど」。

男：でもですね。怒らないと野菜が美味しいかと言うと、そうでもないんですね。怒っても怒らなくても美味しい時は美味しい、不味い時は不味い。自然の摂理です。

新：原発は自然の摂理じゃないわ。またまた怒ってくるわ。

男：分りました、分りました。佐賀地裁の話聞かせてください。この弁護団声明には……

「タ」も熱が入ってきて、「この決定にはね、社会の変化とか、人の心の変わりようとかいうものが少しも反映されていないのよ。全く、官僚の作文なのよッ」と「男」の話の腰を折るのをいといません。

男：でも、裁判官というのは、裁判する官吏、判決を下すお役人、っていう意味でしょう。だから官僚の作文で当たり前じゃないですか。

タ：ア～、あなたと話していると怒る前に頭が痛くなってくるわ。あなたの持っている弁護士さんの声明も、裁判官はお役人、官僚なり、っていう立場では書いていないでしょう。

男：書いてありますよ。

新：そう書いてあるの？

男：裁判所は「再稼働のために策定された新規制基準に合理性を認め……」って。

タ：だから弁護団は、そういう立場ではケシカラン、って言っているのでしょうか。この人（と「新」を示します）も同じことをおっしゃっているのよ。

男：もちろんそれは分かっていますよ。ですがね、私はお役人である裁判官に期待する気分にはならない、って言いたいんですよ。

タ：そんなに感じている人がほとんどじゃないのかしら。

男：（「タ」に向いて）あなたも、裁判官はお偉いお役人さんと同じ考え方をしている、お国に忖度するって思うでしょう。

新が「タ」よりも先に答えます、「忖度ねえ～。忖度をする度合いは、官僚よりも裁判官の方が大きいんじゃないかしら」。

タ：佐賀地裁の決定を見ると、そうも言いたくなりますよね。

と、テント内の会話は思わぬ方向に進んでいきました。

(文責 栗山次郎)

2018年3月26日公開

参照：(2018年3月20日) 原発なくそう！九州玄海訴訟原告団・弁護団「玄海原発 3, 4号機再稼働差止仮処分不当決定についての声明」

http://npg.boo.jp/kieyuku/week_repo/180320karisyobun_bengodanseimei.pdf